

## カラマツヤツバキクイムシ <生態など> <被害> <防除> <文献>

春から夏にカラマツの幹に穴が開く。穴は丸く、直径約3mm。穴からは粉状の木くずやヤニがでる。樹皮下に最大長約5mmの甲虫がいる。体は円筒形に近く、黒や焦げ茶色。樹皮の内側で繁殖する。幼虫は脚のないイモムシ。最大長約5mm。体は白く、頭は黄色。

通常は新鮮な丸太などにつくが、増加すると生きた木を攻撃し枯らすことがある。なお、潜る部分は樹皮の内側であるため、木材の価値を下げることはない。



1. 成虫, 体長5mm. 2001/9/3. 滝川, カラマツ.



2. 穿孔部位から排出される木くず. 1982/6.



3. 樹皮下の穿孔状況と幼虫や蛹. 1982/7.



4. 被害, 1984/7/20, 和寒町.

### [戻る](#)

【学名】 *Ips cembrae*

【分類】 コウチュウ目 (Coleoptera), キクイムシ科 (Scolytidae)

【分布】 北海道, 本州; ユーラシア, 台湾.

【生態】 [戻る](#)

年1~2回発生。成虫で越冬。

成虫で越冬する。春に新鮮な丸太, 風雪害による折損木などに穿孔する。内樹皮に上下方向に母孔を10~20cm掘る。母孔の壁に

卵を産む。幼虫は主に内樹皮を食べて成長し、蛹になる。8～9月に成虫となり、しばらく内樹皮を食べてから越冬する。暖かい年や地域では7月に成虫になり、外に出て他の木や丸太に移り再び繁殖する。

発育ステージ	～3月	4	5	6	7	8	9	10	11～
成虫（越冬）	+++	+++	+++					+++	+++
成虫（産卵○，摂食●）			..○	○○○	..	..●●	●●●	●..	
幼虫				..■	■	■			
蛹					..◇	◇..			

【被害】 [戻る](#)

風雪害，異常乾燥，食葉性害虫の多発などにより，木が衰弱気味のとときに被害がときどき発生する。生息数が多いほど被害はしやすい。穿孔された生立木はたいてい枯死するが，穿孔数が少ないときは生き延びる。

【防除】

カラマツヤツバキクイムシを増加させないために，繁殖源となる新鮮な倒木や丸太などは5～8月の間は山に放置しないことが基本である。

放置する場合はクイムシ類用の農薬を散布して虫の穿孔を防ぐ，あるいは剥皮する。なお，秋から冬に伐倒した場合は，直径8cm以下の木は繁殖源としては不適なので放置可能である。

枝打ちや除間伐などの施業は秋から冬に実施する。

5月に山土場に丸太を置き，成虫が十分穿孔した後の6月下旬～7月上旬（道東の場合）に剥皮して農薬散布，もしくは山から搬出することで駆除できる。ただし，剥皮や搬出の時期が遅れるとかえってカラマツヤツバキクイムシを増加させることになる。

【防除】 [戻る](#)

これまで言われてきた防除の方法を以下の表に取りまとめた。予防はカラマツヤツバキクイムシの生息数を低く抑えるための手段で，何らかの原因で生息数が増加した場合，施業を安心して進めるには駆除が必要になると考えられる。しかし，今のところ簡易な駆除方法は確立されていない。

予防（表内の林，木，丸太とはカラマツ，グイマツなどカラマツ属の林，木，丸太である。）

施業種	施業上の留意点	備考

など		
予防の 基本	丸太は早期搬出し、5～8月には山に置かない。	繁殖源になる。
全般	昨年、除間伐や主伐を行った林や風雪害が発生した林に近い林では施業を行わない。	カラマツヤツバキクイムシの生息数が増加している可能性が高い。
	食葉性害虫が発生中の林で除間伐を実施するときは伐倒木を必ず早期搬出する。	カラマツヤツバキクイムシの被害が発生しやすい。
枝打ち	秋～冬に実施する。	新鮮な枝打ち痕の臭いに虫が誘引される。
保育 伐、切 り捨て 間伐	伐倒丸太を搬出できない場合は、丸太を林縁や日当たりの良い場所に置かない。	日当たりの良い丸太に好んで穿孔する傾向がある。
	秋から冬の伐倒木では直径8cm以下の丸太は放置可能である。	繁殖源として不適である。
間伐、 主伐、 風雪害 木	末木や枝条は山土場や作業道に敷いて重機で踏み固める。	繁殖源として不適になる。
	丸太を搬出できない場合は、丸太全体を剥皮する。または、カラマツヤツバキクイムシの活動開始直前の5月中旬頃に農薬を丸太に散布する。	剥皮すれば繁殖できなくなる。ただし、秋から冬は樹皮が剥がれにくい。農薬散布により穿孔するカラマツヤツバキクイムシが減少する。
	土場は林からできるだけ離す。	土場でカラマツヤツバキクイムシが増殖することがある。
	食葉性害虫が発生しているときは、環境を大きく変えるような施業は避ける（強度の間伐、隣接林分の皆伐など）。	生立木の衰弱が大きくなる。

## 駆除

方法	備考
丸太を6月まで置いてから、搬出するか、剥皮して農薬を散布し、中のカラマツヤツバキクイムシを駆除する。	処理が遅れると、カラマツヤツバキクイムシを増殖させることになる。

1985. 農林水産省林業試験場北海道支場保護部. 北海道樹木病害虫獣図鑑. 223 pp. 北方林業会, 札幌. (生態, 被害, カラー写真).

1994. 小泉力. カラマツヤツバキクイムシ. 小林富士雄, 竹谷昭彦編集, 森林昆虫, 総論・各論: 183-184. 養賢堂, 東京. (形態, 生態, 被害, 防除)

作成中

北海道立林業試験場・緑化樹センター

カラマツヤツバキクイムシ kikui/karayatu/  
kaisetu.htm

「文章」 原秀穂, 北海道立林業試験場, 2001/7/27-12/16.

kikuzu.JPG, senko1.JPG, higai.JPG

「写真2～4」 鈴木重孝, 北海道立林業試験場, 1982-1984.

seichu2.JPG 「写真1」 原秀穂, 北海道立林業試験場, 2001.